第 29 回中井町地域公共交通会議 議事録

日時：令和元年 11 月 20 日（水）午前 10 時 00 分～
場所：中井町役場 3 階 3A 会議室

【会議次第】
1 開会
2 あいさつ
3 協議事項
（1）オンデマンドバス利用状況について
（2）日赤への乗り入れ（乗降ポイントの追加）について 承認事項
4 その他
5 閉会

【協議事項の議事】
3 協議事項
（1）オンデマンドバス利用状況について
（事務局より（資料１）オンデマンドバス利用状況について、（資料１－１）中井町オンデマンドバス実証実験の登録状況及び利用状況について、（資料１別紙）時間帯別・月別予約件数について、（資料１－２）居住地区別・年代別の予約件数比較表について説明）

会 長：事務局から詳細なデータを出していただいた。ここまで質問・発言はいかがか。

委 員：３ページの登録者数の推移は、死亡した方は抹消されておらず、積み上げている数字だと思う。社会福祉協議会の福祉有償サービスも積み上げをしているだけだが、せっかくこうした資料を作っているので、手間はかかると思うが、死亡した方は抹消していただいた方がよいと考える。
それから、本年１月から予約申込みの方法が変わり、空いている時間が表示されて便利にはなったが、なかなか自分が希望する時間通りにいかないところもある。前は、予約申込みをしても時間の都合がつかなくなってキャンセルされる方が多いと言っていたと思うが、その後はどうなったか。

事務局：登録者数については、ご指摘のとおり、死亡者数は反映していない状況である。運行体制の見直しも含めながら、死亡者を洗い出し、適正な登録者数を計上していきたいと考えている。ポケットバス停の利用状況については、資料１－１の４ページに掲載している。資料にはないが、平成 31 年１月の切替え以前は、月に数件の利用があった状況である。切替え後は、資料のとおり利用いただいているが、色々な意見があり、便利になったという方もいて、町としても多少なりとも乗合いが促進されていると感じるところもある。ただ、データとして４ページの図５の下のグラフを見ると分かるが、平成 31 年１月以降、予約状況が伸びたかというと WEB 予約は伸びていない状況である。本年８月

に WEB 予約が急激に伸びているが、ポケットバス停の影響とは言えず、ポケットバス停の効果があったのかというと難しい状況である。

事務局：取りやすさ、空いている時間の見やすさという面では、検証させていただいて、ある程度の効果が出ているのではないかと思っている。そうしたことも含めて、引き続き、これらについては検証していきたいと思っている。

会　長：予約はしたが取り消してしまったなど、キャンセル状況は把握できているか。

事務局：当日の予約件数が増えている状況にあり、町内完結型にした影響もあるが、当日に取りやすくなったということで、キャンセル等は減っているのではないかと認識している。

委　員：今の話に関連して、２ページの予約件数の推移について、予約件数というのは実際に乗った件数ではないということか。

事務局：予約を取った件数である。

委　員：実際に乗った方の人数は何を見ればよいか。

事務局：乗車人数となるが、３ページの図２に掲載している。

会　長：予約件数と乗車人数で比べると、乗車人数の方が１割程度多いという認識でよいか。

事務局：その認識でよい。

会　長：１件の予約で２人乗る方も中にはいるが、大人は１件の予約で１人乗るといった感じかと思う。

委　員：予約はしたけれどもキャンセルになった件数もあるということか。

事務局：予約件数は予約を取った件数、予約人数は予約を取った際の人数、乗車件数は実際に乗車があった件数で、乗車人数は実際に乗った人数という整理をしている。予約件数と乗車件数の違いは、予約を取ったけれども当日にキャンセルをせず乗らなかったというような、未乗車の取扱いをした件数を含むか含まないかである。

委　員：町内完結型にする前で、バスが遠くに運行しているために予約をしたくても取れなかったという件数は出ているのか。

事務局：予約が取れなかった件数というのは、今回の資料では出ていない。

会　長：予約不調という言い方をしているが、電話で断った件数は分かるかもしれないが、WEB を見て諦めた方もいるであろうし、ダメだった件数というのはなかなか難しいところかと思う。

事務局：これまでは、WEB の方でも、時間を入れて検索ボタンを押して予約を取らなかったという方は調べることができたが、ポケットバス停に移行してからは、時刻表を見てボタンも押さずに予約を取らない方もいると思うので、不調の件数を確認するのが難しい状況である。

委　員：町内完結型にした前後でどのような状況かは分からないということか。

事務局：その通りである。

委　員：もうひとつ、先程の乗合いという話で、１つの予約で家族が乗るような、１件の予約で２人以上乗る予約の件数と、全く異なる別々の予約で乗り合う件数の率や件数は把握されているか。

事務局：予約の際に同乗者の人数を確認するので、１件の予約で何人乗車という形で、そちらを

もとに乗合率や乗車人数、乗車件数等をカウントしている。家族だけれども、それぞれで予約を取って同乗したような場合は、予約ベースでカウントしている。

委　員：途中で別の方が乗って、乗合いになる件数はあるのか。

会　長：連続的に乗車と降車が重なるので、「何件」という表現は難しいかと思う。ただ、乗り合っている状況は、時々存在しているということでよいか。

事務局：それでよい。１回の区間の中で、何回の乗合いをしているかということだと思うが、そこまでのカウントは難しい。

委　員：オンデマンドバスなので、乗合率を高めるということが必要なのだろうと思っている。したがって、どのくらいの件数があるのか知りたかったので質問させていただいた。

事務局：乗合率を高めるためにポケットバス停を導入し、選択できる時間を限定することで、乗合率を高める予約方法に切り替えたところである。

委　員：関連する話になるが、オンデマンドバスに乗っていた際に、中村小学校に寄る運行だったのだが、別の車両がほぼ満席になり、残りの小学生が私の乗っていたバスに乗車した。運転手が乗車する児童の名前を確認していたが、あれは１人１人が予約しているのか。

事務局：その通りである。下校時間が同じということもあり、親がその時間に予約を取ると、そこで乗合いが発生するという状況である。

委　員：運転手が確認する前に子どもが名乗って「○○です。よろしくお願いします。」と言っているのは、乗っていて清々しい気持ちになった。

会　長：他はいかがか。

事務局：今回、委員から質問をいただいた中で、データ化できるものは、今後、資料として提出させていただきたいと考えているのでよろしくお願いする。

委　員：４ページの図４で、７時台と 15 時台が多いのは小学生の利用が多いということか。
また、今の車両で満席になったという実績はあるか。

事務局：図４について、15 時台は児童の下校の時間帯の利用で、７時台は小学生の登校だけでなく、通勤の方が使っている状況である。ご質問の満席になる乗合いが発生したかという点については、今のところ聞いていない。

会　長：常に別方向に行く利用者がいて予約が取れないという状況は少ないながらあり、同じ方向の車両はあるが、予約はいっぱいという状況は極めて少ないということかと思う。

委　員：町内で車両が走っているのを見ると、たくさん乗っている姿はあまり見ないので、
現状、あの車両は大きすぎるのではないかと感じている。2000cc くらいのもう少し小さい車両でも十分な範囲ではないかという感想を持っている。

会　長：その点について、事務局からいかがか。

事務局：「４　その他」でも、今後の運行体制について話をさせていただこうと思っていたが、検証の結果、なかなか乗合いが進んでいない事実もあり、今年でオンデマンドバスの事業を始めて７年目ということもある。車両の寿命等もあるので、それらも含めて、運行体制や車両の大きさを含めた検証の中で、方向性を検討していく必要があると思っている。

会　長：事務局から当初の経緯を説明しないといけないと思うが、小学生の帰りの人数を考える

と、主に境地区が多いと思うが、下校の時間が重って10数人の予約があり、１台では間に合わず２台目にも何人か乗る、という状況だったので、普通の2000ccだと、小学生の下校に使う場合は乗り切らないかと思う。小学生が使うことを前提にするのであれば、恐らくこの大きさの車両でいくことになると思う。これまではそうしてきたというところなので、今後については、また後で事務局から説明されるのかもしれない。

会　長：ということで、１ページの資料１だが、だいたい一月600件前後～700件に近い件数があり、これが町内で完結している場合は、８～９割の予約は少し時間をずらせば取れるような状況だと思われる。１日あたり30人前半だが、これが40人であるとか、予約件数にして30件を超えてくると、予約がうまくいかないという状況がかなり出てきて、1日あたり40件になると、かなり断らなくてはいけなくなる、そのような数字かと思う。今回、数字として出ていないが、基本的には常に車が動いている状況にあるのだろうと思う。資料１の平均利用者数というのは、１人か２人しか乗ってはいないが、全く車が動いておらず、運転手が暇そうにしているという状況は非常に少ない、という理解をすればよいと思う。

会　長：これは現状ということで、次の議題とも関連するので、何かあればその際にご発言いただきたい。

（２）日赤への乗り入れ（乗降ポイントの追加）について　承認事項

（事務局より（資料２）日赤への乗り入れについて、（資料２－１）H29年度日赤乗降ポイント利用状況について、（資料２－２）日赤病院までの出発地別運賃額比較について説明）

（事務局より情報提供）

事務局：今回の案件ではないが、乗降ポイントの追加に関連して、今後の案件としてあげる予定のものがある。中村下地区に、大型店舗ではないものの、主に農業用品を扱う商業施設がオープンするという計画がある。日用品等も多少は置かれるという話なので、今後、買い物利用等による需要が見込めることから、乗降ポイントの設置に向けて調整を進めていきたいと考えている。オープンの日など詳細が決まり次第、本会議の案件としてあげさせていただきたい。

会　長：事務局に確認するが、この議題は本日の審議事項とし、事務局としては原案どおり承認いただいて諸手続きに入りたい、という提案と認識してよいか。

事務局：その通りである。

会　長：提案としては、乗降ポイントを秦野赤十字病院に設けるということで、これはもともと設置していた場所なので、色々な調整はあまり問題ないだろうと想像される。また、運賃を400円に設定するということで、この運賃と乗降ポイント１か所の追加について審議をお願いするということである。中村下地区の商業施設は検討しているところであり、今回の提案には入らないということで理解してよいと思う。

会　長：事務局から、課題や対応策、データなどを見ながら提案をいただいた。ご意見を色々いただければと思うがいかがか。

委　員：100％要望に応えることは、絶対にできないと思う。病院やスーパーができたということ

で、あえて町外の乗降ポイントを廃止にして日赤を止めた経緯がある。今の説明の中でも、１日のうち病院に行くであろうという人が、わずか１人いるかいないかという状況で、ここまでして復活する必要があるのかと考える。個人的には、申し訳ないがその必要はなく、今、町内で実施している中で精度をあげていくべきだと思う。社会福祉協議会で行っている福祉有償サービスの利用者では、確かに、日赤や大磯の病院などの病院関係が一番多いが、一年間で何をここまで検討しなければいけないのか、もっとその他にもやることがあると思う。そういう意味で、１日１人いるかいないか、そして運行時間の制限まで考えて、ここまでやる必要があるのかと、私としては疑問に感じる。それよりも、今あるものを充実した内容にできるよう検討する方が先だと考える。

それから、この議題とは全く関係ないが、私の近所の人がオンデマンドバスでよく買い物に行っている。まだ若い人だが体の具合が悪く、乗るときはいいと思うが、帰りが大変そうなので、降りるときに何か配慮する制度にできないものか。たまたまこの間、降りるポイントまで来たら、運転手が 200mくらい歩いて荷物を届けていた。乗るときは決まった場所でも仕方がないと思うが。私は、よく知っている運転手の時には、そこでいいよと言って降りてしまう。乗降ポイントとは関係ないが、そういった点の工夫や配慮をしていただくことはできないかと感じている。

会　長：この件は、当初の考え方や運行見直しなど色々な議論があって今の状況になっているので、慎重に皆様からご意見をいただいた方がよいと思う。事務局からの答えはまとめてとさせていただき、まずは、色々とご意見をいただければと思う。いかがか。

委　員：想定で構わないが、これを実行するにあたって、小学生の通学に影響がないのかということがひとつ、また、予定としては来年の４月から実証運行を実施ということだが、その期間はどう考えているか。

会　長：これは個々の質問であるので、事務局から回答をお願いする。

事務局：小学生の通学の足ということだが、オンデマンドバスは登校では利用されていない。帰宅だけである。したがって、朝の時間帯に被ることはないということになる。

委　員：行きはご両親が送っているという事か。

事務局：中村地区だと神奈川中央交通の路線バスがあるので、それを利用していただいている。今回の対応をした結果、通学の足が奪われるということはない。帰りは１５時台の利用であるので、そこに制約はかかっていないので、そのまま利用していただけると考えている。

委　員：バスが日赤に行ってしまうから利用できなくなるということは想定されない、ということか。

事務局：平成２９年度までそうした形で運行してきた中で、先程あったように、人数が多く乗り切らなかったということはなかったので、そこは大丈夫だと認識している。日赤の件については、今の車両が今年で７年目ということで、寿命等もあるので、10 年くらいを目途に、今後の運行体制や車両の見直しを図っていかなければいけないと考えている。基本的には、検証はしていくが、現状の運行と車両の中で対応させていただき、１年といった区切りは設けず、今後の車両や運行体制の見直しまでやらせていただきたいと考え

ている。もちろん、検証していく必要があるというところは認識している。

会　長：他はいかがか。

会　長：事務局からは復活ではないと発言があり、形を変えて、ということだが、外から見るとなくなったところを復活させるということになるので、いいのか、という意見はあると思っている。いかがか。

委　員：日赤を利用される方のみを対象として運行するということでよいか。予約を受けるときに、目的が通院なのかを確認して予約を受けるのか。

事務局：基本的には、そこまでは聞くつもりはない。予約の時間帯から、特に、朝は病院利用ではない方の利用が多かった。そのことから、通勤の時間帯である７時から８時を制約して、それ以外の時間帯は通院が主たる目的だろうという整理で進めさせていただくということである。仮に、４月から始めるとなった場合には、そこの内容の検証、実際の利用状況はどうか、実際どういう傾向が出るのかということは、もちろん検証はしていかなければいけないと思うが、通院ではないからと断ることはできないと思うので、電話でそこまでのやりとりはせず、また、インターネットの予約では、まして、確認作業自体ができないので、そういった制約をかけるつもりはない。

委　員：この予約を受け付けるときには、時間帯を限っているだけということか。

事務局：時間帯をそこだけ制約するということである。

会　長：他はいかがか。では、最初の委員からの質問を含めて、事務局から回答をお願いしたい。

事務局：確かに委員からの意見も理解できないところではなく、１日１人程度の利用というところで、なぜやるのかという考えもあると認識している。しかしながら、総合病院というところで、日赤の利用が全くないというわけではないので、制約をかけることで真に日赤に、例えば、比奈窪から路線バスを乗り継いで行く場合や、バス停でオンデマンドバスから路線バスに乗り継いで行く場合など、年輩の方などは不自由だと、また、乗り継ぎの時間等の関係もあるので、そういったことを鑑みて、既存のそのくらいの利用であれば、他の利用者を阻害することもないという判断のもと、来年度から乗り入れをやらせていただきたいというところである。これが最終的な方向性ではないので、先程も申したが、既存の車両の寿命等を含めた中で、町としても次の新たな運行体制の方向性を出していかなければいけない時期だと思っている。それらとあわせて、来年度からやらせていただける場合には、それも含めた検証の中から、方向性を考えさせていただきたいと思っている。ぜひ、来年度から乗り入れを開始させていただければありがたい。

会　長：事務局からは、やりたいという説明だったが、ご意見いかがか。

委　員：私はやることをいいとは思わない。議会からもオンデマンドバスに関する提言があったと聞いているが、もう少し、町民にもオンデマンドバスの本来の目的や、なぜ秦野駅や二宮駅への乗り入れがダメなのか等について、説明責任ではないが、そうした説明をきちんと行ったうえで乗降ポイントの変更等を議論していかないと、また、どこかの場所の話があがった際に、そこだけを増やすといったことになってしまう。そうではなく、もう少ししっかりと、今ある体制の中でオンデマンドバスの性質や利用状況などから、使いやすさの検討をしていくべきだと思う。新しい店ができたから増やそう、日赤乗り

入れの要望が出たから増やそうということで、こうした会議の議題にあげるというのは疑問に感じる。先程の中村下地区に商業施設ができたら、改めてこの会議にあげるという話ではなく、その都度必要であれば追加すればよいと思う。

事務局：話は大変理解できる。要望があっても、必ずしも乗降ポイントを増やすということではない。町としても、真に必要だと判断したものをこの会議で諮らせていただきたいと考え、今回もあげさせていただいた。むやみに町外の乗降ポイントを増やすという考えは持っていない。乗降ポイントの追加等については、公共交通会議の案件ということになっているので、そこについてはご理解をいただきたい。

会　長：ただいま委員から指摘があったところで、私も過去の会議で色々な意見を申し上げてきたが、このオンデマンドバスの本来の目的を理解していただくということが非常に大事である。そのうえで乗降ポイントを増やす、減らすといった色々なことをやっていく必要があり、その理解なしに要望を受け止めるというのは、お互いにとって不幸なことになると思っている。色々と要望をいただいているという話は、私も間接的に聞いている。事務局に聞くが、要望をいただいた先に、オンデマンドバスについてどういった説明をしていて、どこまで理解いただけていると認識しているのか、率直に言っていただきたい。

事務局：オンデマンドバスの本来の目的、先程、担当から説明したとおり、幹線・支線といった路線バスとの住み分けや全体の中で公共交通を支えていくという基本的な考え方は、色々な説明の際に、まず初めに説明させていただいているところである。実際に、平成30年度からオンデマンドバスを町内完結型にさせていただいた際には、町の広報紙で5～6回の連載を行い、デマンドバスについて、町民の方にどういった目的・経過でやってきたかということを周知させていただいた。しかしながら、町民の方の理解が浸透しているかというと、出来ていない部分があろうかと思っている。そこについては、色々な広報手段等を使い、説明させていただくことが必要だと思うので、現状としてはそのように認識している。なかなか、オンデマンドバスと路線バスの本来の目的については、浸透していない部分があると感じている。

委　員：今、事務局から話があり、オンデマンドバスを平成30年度から町内完結型に切り替えたということだが、それはオンデマンドバスという概念をもとに、そうされたということか。

事務局：もともと、オンデマンドバスを導入した時の考え方がそういったものなので、現状、それをもとにオンデマンドバスを運行しており、町のオンデマンドバスはそういったことを目的に実施させていただいているという話をさせていただいた。

委　員：本来の運用形態に戻したということでよいか。今までは、日赤や二宮の方面に出ていたと認識している。

事務局：当初の導入時には、町内に大きな商業施設がないということで、そうした配慮のもと、町外の商業施設等にも乗降ポイントを設けたと認識している。町内完結型にする際には、井ノ口地区に商業施設等ができたことで、日常的な買い物等についてはそこで対応できるようになり、平成30年度から町内完結型にさせていただいたという経緯がある。

委　員：町内の住民が、町内でだいたいの用事を済ませることができるという考えか。

事務局：日常的な買い物については、という話である。

会　長：そこで、日赤という日常ではないところに乗り入れをするのか、ということだが、事務局としては入れたいという考えのようである。そこは少し違っていると言えるので、この後に決を採るが、それはこの場で整理をして、要望をいただいている方にもその結果がどうなるにせよ、今回の考え方について、きちんと説明しなくてはいけない。

委　員：バスの規制緩和以降、中井町でも境の路線が減便され、比奈窪から鴨沢も廃止され、国府津方面のバスもなくなり、二宮方面も橘団地を寄っているなど、色々と本数が少なくなった。規制緩和以降、色々な問題が生じている。今後、検証していく際には、それらを含めたうえで考える必要がある。中井町の一番不便なところは駅がないところであり、役場に来ても、その周りに病院があり、お店があり、というような日常生活を完結できるところはない。全てバラバラなのだと思う。そういったものを深く検証しながら、次に向かっていくしかないと思う。そうしたことを踏まえれば、今ここで日赤を増やすなどといったことはやらず、もっと今ある中で、町民の 100%が満足とはいかないが、ここまでできる、というところを努力していくしかないと思う。

事務局：もちろん、それはやらなければいけないと考えている。来年の４月から日赤まで運行する形でお願いさせていただいているが、それが最終的な見直しというわけではないので、先程から委員にお話しいただいていることについて、しっかり検討していくことは当然だと考えている。

委　員：それに関連してだが、オンデマンドバスはそのコンセプトの範囲で運行しているということであれば、そのできる範囲でやるしかないかと思う。その中で、中井町の実状を考えながら、少しでも皆さんの利便性が上がるような形を考えて行かなくてはいけないと思う。先日の総合計画審議会では、「あなたはこの町にずっと住み続けたいですか」という設問に対するアンケート結果が出ていたと思う。そこで、中井町から出たいと回答している人の一番主な理由は、交通が不便だという点であった。非常に大きなポイントだと、私は捉えている。これは今後の話だと思うが、日赤を利用している人たちの内訳を見ても、やはり、日赤を目的として降りる人は少なく、その先の場所を目的として降りる人の方が圧倒的に多い。中井町には鉄道駅がなく、そこは致命的な部分ではあるが、逆に言うと、色々な街の中継ポイントであるとも言える。周りは小田原、平塚、秦野に囲まれている。ある意味、この交通網をうまく利用すれば、中井町の発展ということも考えられる。やはり新しい公共交通の足を考える前に、現在のオンデマンドバスから脱却して、既存の神奈川中央交通の路線バスも含め、外につなげる方法も考えていかなければいけないと思っている。二宮・秦野など、今まであったビッグや西友のあたりはかなり利用者が多かったと認識している。そこは大きなポイントとして捉えておかないといけないと思う。今すぐやるということではなく、今後考えるときに、そういうことも考えていかなくてはいけない。中井町は予想以上のスピードで人が減っていて、少子化が進んでいる。特に、少子化は想定を超えていると思う。若い人をいかに食い止めるかを考えると、公共交通は非常に重要なポイントだと思っている。それも、今後の参考に

してもらえたらと思う。

会　長：もう少しでこの案件の決を採りたいと思うが、他にご意見いかがか。

委　員：私は、これはこれでやってよいと思う。

会　長：この立場であまり話しすぎるのはよくないと思っているが、この件については事務局から事前に相談を受けており、率直に申し上げるとあまり筋はよくないと返事をさせていただいていた。とはいえ、もし、やる必要があるのならば、次のような整理になると思っている。路線バスで日赤に行くことが現実的でない方は、少ないけれども確かにいるのは事実で、福祉有償サービスの対象にはならないが、路線バスを乗り継いで日赤に行くことが現実的でない人も、少ないけれども確実にいるのかと思う。誰も取り残さないという方針であり、現状のシステムを使ってそうした方を救う、そうした方を上手に限りながら何か導入できるのであれば、やってもよいと思う、と事務局には申し上げた。だとすると、まずは運賃になると思うが、以前は、路線バスに乗り継いで行くよりも明らかに安い料金が設定されており、これは逆に、オンデマンドバスを利用して病院に行ってくださいと言っているようなものなので、恐らく、それはよくないやり方である。少なくとも、路線バスに乗り継いで行ける方は乗り継いでいただいて、それがなかなか厳しい方々が使えるような形で、また、町内移動に対して悪い影響がないような形で使っていただくのであれば、例え１日１人いても支障がないだろうと思う。１日１人とはいえ、それは同じ人が乗るのではなく、様々、別の方が使われるので、１日１人といっても、町の中で 30 人くらいの方が対象になるだろうと想定される。そういうことであれば、私は、今までのコンセプトの範囲で出来るのではないかと事前に申し上げた。その後に検討いただいたのが、300 円を 400 円にするという内容である。個人的には、400 円では、それでも路線バスを乗り継いで行くよりも安いと感じる。いいのか、という話もあるが、そこを 1,000 円にするのか、500 円にするのかは、個別の議論になるので、事務局が 400 円と考えたのであれば、それは考え方かと思う。もちろん色々な考え方はあると思う。したがって、本当に必要な方が比較的気軽に使えるような形であり、実証という範囲でやるのであれば、提案してもよいのではいかと話をさせていただいた。率直に言うと、私はイエスでもノーでも、それは考え方なのでよいと思っている。ただ、一方で、一部だが強い要望があるということも聞いているので、そこは、一旦、広げなければいけないことだと思っている。そうしたことを踏まえて、皆様からご意見はいかがか。

委　員：別の委員が言っていたことも分かるが、逆に言うと、利用件数がごく少ないので、その他の運行にそこまで支障が出ないと思うし、オンデマンドバス全体の運行の大きな障害にはならないと考えるので、やってみてよいかと思う。

会　長：恐らく、これをやったことで収支がとても悪くなるという影響もないだろうし、予約不調がとても増えることはないという話で提案されているので、特に文句は出ないのだと思う。要は、もともとの目的にちゃんとあっているのか、そこだと思っている。最初の委員が言われたところであり、そこに対してどう思うか、という話である。お金の面では全く変わらない話である。

委　員：もともと、運賃をもとに考えている訳ではない。400 円にしろ、1,000 円にしろ、今までどおりだったらよいとは思う。私は、絶対にこれがダメだという話ではなく、ここまでやる必要があるのかと考えているだけで、ここで採決を取るのであれば、仕方なく手を上げるつもりでいる。

会　長：ご意見いかがか。では、今の委員から強い懸念はいただいているが、手は上げるとの発言もあったので、決は採らせていただくものの、何らかの条件を付け、例えば、本来のオンデマンドバスの目的について、きちんと町内に周知していただくこととしてはどうか。恐らく、そうしたことをなしにやるわけにはいかないと思っている。

委　員：こういうものなので、付帯的な意見をつけるということではなく、素直によいということでよいと思う。

会　長：特に意見はいらないという発言があったが、こういう議事があったということを残せば十分、ということであれば、それでもよいかと思う。いかがか。

委　員：今までの話を聞いて、賛成・反対は別として、例えば、登録した人数と実際乗った人数に差があるだとか、乗合率がまだ低いだとか、乗継ぎをする方にどんな不便があるのか、例えば、屋根が付いていないだとか、時間帯が合わないだとか、そういった色々な検討事項があるので、そういったものについては色々と検討していただきたいということをお願いする。そしてもうひとつ、実証運行という言葉を使っているので、先程から話を伺っていると、しばらく、あと３年は続ける、というように聞こえるので、提案としては、１年経ったらまた継続すればよい話なので、１年間に限りであるとか２年間に限りという限定をするといった、期間を定めるというのはいかがか。

会　長：まず、今日の提案について、実証運行という言葉が使われているが、実証とは何か、ということは書かれていない。それに対して何か言うか、ということだと思う。

委　員：実証ではないのではないか。単なる追加ということでよいと思っている。

事務局：実証という言葉は使っているが、そういうことになる。

委　員：オンデマンドバスの実証期間も終わっていると認識している。単なる追加ということでよいか。

事務局：基本的には、そういった考え方になる。

会　長：恐らくこれは、新規に認めていただいたら、これは運行について検証していきます、というぐらいの意味だと思う。例えば、８時からではなく８時半にします、であるとか、いや７時でも大丈夫、といったことを検証するという意味で実証という言葉を使っているという認識でよいか。

事務局：その通りである。申し訳ない。

会　長：期間を区切るといった意味の実証ではないと理解する。

委　員：変更する場合があれば、また検証して提案されるということか。承知した。

会　長：実証というのは、検証をしていくという意味であることと、色々と意見はいただいたが、原案をこう変えてほしいというものはなかったので、原案どおり、400 円にして日赤に乗降ポイントを設置するということについて決を採らせていただきたい。よろしいか。

委　員：日赤の乗降ポイントは以前使われていたと思うが、改めて、道路管理者や警察等と確認

はされているのか。

事務局：病院の敷地内の話なので、特段、事前に警察関係者等へは話をしていない。ただ、運行事業者とはやりとりをして、調整ができている。

委　員：病院の方にも話をしてあるか。

事務局：当然、病院にも話をしている。

会　長：では、改めて決を採りたい。原案どおり承認いただける方は挙手をお願いする。

＜承認＞

会　長：本日、有意義な議論があったので、事務局には議事に残していただきたいと思う。

４　その他

（事務局より（資料３）新たな運行体制への見直しについて説明）

事務局：今回の議題とするものではないが、オンデマンドバスの運行開始から７年を迎え、車両の寿命等も近い状況である。今後、これまでの実績や課題を踏まえ、現行のシステムや今回承認いただいた日赤乗り入れの効果を検証するとともに、それぞれの公共交通機関の役割の範囲の中において、より効果的な運行方法を検討していく必要がある。そのような中で、資料にあるとおり、現状と課題を整理して見直しを図っていきたい。

会　長：具体の話があるわけではないが、改めて、こういった課題があるので共有してもらいたいということかと思う。いずれにしても、路線バスのことも考えなくてはいけないので、運行体制の見直しと言いつつ、路線バスのことも考えることになるかと思う。見直しの方向性とあるが、期限としては、車両の耐用年数の関係ではいつぐらいになるか。

事務局：オンデマンドバスは、現在の車両で７年目を迎えるが、運行事業者との間では、概ね10年くらいは大丈夫だろうという話をいただいている。そのくらいを目途に対応を考えていきたいと思っている。

会　長：２～３年の間には考えなくてはいけないということなので、そのためには、来年度か今年度中くらいから、ある程度考え始めると思っていてくださいというところかと思う。皆様からいかがか。

委　員：２台の走行距離は何キロ走っているのか。

事務局：本日は手元に資料を用意していない。申し訳ない。

委　員：ただ単に、耐用年数が過ぎているというだけではなく、車両は大変丈夫だと思うが。

事務局：実際の走行距離等を確認しながら、過去に使用した車両の年数や走行距離を含めて、このくらいであれば大丈夫だと、そういった話をいただいている。その辺りは確認させていただく。申し訳ない。

会　長：他はいかがか。

－意見なし－

事務局：本日、提案した議事について、ご承認いただき御礼申し上げる。以上を以て会議を終了させていただく。日赤乗り入れについては、引き続き検証し、今後の新たな運行体制等

についても見直し期間に入っているので、しっかりと取り組んでいきたいと思っているのでよろしくお願いする。

以上

〇出席委員：
中井町自治会連合会長　相原 久雄
境地区バス利用対策委員長　相原 憲一
一般公募委員　廣澤 瀧男
東洋大学国際学部国際地域学科教授　岡村 敏之
神奈川運輸支局輸送担当運輸企画専門官　（代理）田中 光
神奈川県県土整備局都市部交通企画課　（代理）岩本 聖輝
神奈川県県西土木事務所工務部道路維持課　（代理）田代 泰
神奈川県松田警察署交通課　（代理）川上 和則
（一社）神奈川県バス協会　小堤 健司
神奈川中央交通㈱運輸計画部　（代理）山下 康宏
中井町副町長　加藤 幸一郎
中井町地域防災課長　青木 佳朗
中井町福祉課　（代理）安池 義治
中井町まち整備課長　武井 良平
中井町教育課長　高橋 哲也
中井町老人クラブ連合会長　吉居 命
中井町社会福祉協議会会長　早野 茂
中井の環境を良くする会会長　井関 紀広
〇オブザーバー：
秦野市都市部交通住宅課長　橋本 修
〇事務局：
中井町３名